

「西田先生のコンプレックスは何ですか？」

平成 27 年 10 月 13 日

●カチューの栗本さんからの質問

人間誰しも、身体的特徴や過去の経歴など、何かしらのコンプレックスがありますが、西田先生にも、何かしらのコンプレックスがあるのでしょうか？また、そのコンプレックスを克服するためにしたことが何かありましたら、教えていただければ幸いです。

●西田昌司の答え

私もかつてはいろいろなコンプレックスを抱えていました。国会議員の先生は東大・早稲田・慶応といった一流大学出身の方が多いのですが、私はかつて国立二期校であった滋賀大学経済学部の出身であり、高校生の頃は学力コンプレックスを抱えていました。東大に進学する高校の同級生が何人もいましたが、彼らとは圧倒的な学力差がありました。ここで、今でも強烈に覚えているエピソードをお話しましょう。

万全の備えで英語の試験に臨んだ時のことです。試験が始まってから、私は最後まで必死に答えを答案用紙に書いていましたが、出来る同級生は試験終了の 5 分前に書き終えて教室からさっと出て行ったのです。試験の結果、私は 93 点（あるいは 94 点だったかもしれません）でしたが、その同級生は 97 点であり、非常にながかりしたことを覚えています。

このように、人は誰しも学力や容姿等のコンプレックスを抱えているものですが、コンプレックスが他人にばれないように隠してしまいがちです。しかし、隠した瞬間から心の中に嫉妬やひがみの気持ちが生じてしまうのです。映画『スター・ウォーズ』シリーズに登場する「ダークサイドのフォー

ス」に心が占有されてしまい、そうなるとどんどんとマイナスの方向に引っ張られて人は不幸になってしまいます。

ではどうしたら良いのでしょうか？答えは簡単です。コンプレックスを世間に公表してしまうのです。面白おかしく大声で自分のコンプレックスを公表してしまえば、きれいさっぱりとコンプレックスから解放されます！（たとえば大袈裟に思われるかもしれませんが、少なくとも軽減はされます。）この方法は、私の師匠である西部先生から教わりました。西部先生と話をしていた時に、「そういう時はね、西田君。『僕は背が低いけれど、西田君は背が高くっていいねえ』っていう感じで自分のコンプレックスを言ってしまえばいいんだよ」と教わったのですが、まさに目から鱗が落ちる思いがしました。それ以来、私はコンプレックスを公表してそれを笑い飛ばすことで、ひねくれた気持ちから解放されています。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>